

# 学校運営協議会記録

第2回 学校運営協議会		令和6年 9月 20日 金曜日
内 容		
名前	内 容	
教頭	<p>○コミュニティ・スクール先進地視察報告（教頭）※別紙資料あり  <b>【浅口市立鴨方東小】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堅苦しくない</li> <li>・すぐに誰かが反応を返す</li> <li>・やりたいことをすぐ述べる</li> <li>・教育活動を理解している</li> <li>・前向きな意見が出る。</li> <li>・学校主体→地域主体</li> <li>・5～6年かけて今のような形になってきた</li> <li>・大人が一生懸命に子どものために働く</li> <li>・全校児童302名</li> </ul>	
講師 (アドバイザー)	<p>○「ふるさとを想う…」  <u>はじめに…</u></p> <p>空き家が多くなってきた。人が少なくなってきた。隣人との距離が物理的に遠くなつた。</p> <p><u>1. ふるさとの今、そしてこれから</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化社会=成熟社会（子どもたちに伝えられるものをもった人が多い社会）</li> <li>・私たちを取り囲む切実な「課題」⇒人口減（流失）・高齢化・少子化？        →今までできていたことが、できなくなる人・コトが増えしていく        （運転・買い物・通院・ゴミ出し等）</li> <li>→一人の負担が大きくなる社会        （自助・自治機能が低下）</li> <li>→物理的距離の拡大により心理的距離が拡大</li> <li>→納税者が減少していく社会        （財政支出が増大していく社会、公助機能の低下）</li> <li>→在るもののが失われていく社会        （学校…統廃合、公民館…閉館、地域拠点の喪失、コミュニティの劣化）</li> <li>→ないものが生まれてくる社会        （高度情報化、技術革新、仕事、グローバル化等に伴う教育内容の変化）</li> </ul> <p>「ここには なあ～もなか！こがんとこ住まれん！」→<u>誇りの空洞化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソトメ ドウナル？ ソトメ ドウシタイ？」        …帰れないまちを「ふるさと」と呼び 何もない場所を「我が家」と呼ぶ…        たくさん的人がいるのではなく 独りがいっぱいいるまち</li> </ul> <p>&lt;子どもと大人で議論したいこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近未来の「ふるさとソトメ」はどうなるでしょう？</li> <li>・今、子どもたちは、「ふるさとソトメ」をどのように語るのでしょうか？</li> </ul>	

# 学校運営協議会記録

- ・今、大人たちは、「ふるさとソトメ」をどのように語って(伝えて)いるのでしょうか?
- ・地元出身の教員ばかりではない中、どのようにふるさと教育を展開するのでしょうか。

## 2. ふるさと教育の日常性（「基準」を育む）

- ・**空間 時間 人間** 三つの「縁」と三つの「間」の総和としてのふるさと
  - ・**地域【大人たち】 我が家【親たち】 母校【教師たち】**がつながる教育
  - ・子どもの存在が地域を支えている（元気にしている）
  - ・社会総がかりの教育が必要
  - ・「この学校でよかったです。この先生でよかったです。」がないと、ふるさと教育は成立しない。
  - ・小佐々地区の実践 自治協議会  
海光る学園（CS） ⇄ 地域学校協働本部  
連絡 ⇄ 調整
- 学校 CS ディレクター ⇄ 地域コーディネーター（つなぐ役割） ⇄ ヒト

## 3. 地域の力を再結集するために…

- ・近未来を、近未来的なふるさとを思い描きながら
- ・我が地域の実情（体力）に思いをはせながら
- ・自分たちの地域のことは、自分たちの力で取り組めるように（共助・自助）
- ・様々な世代や立場の人々が集まって
- ・小学校区 公民館区の小さな拠点をつくって
- ・命にかかわる切実な問題を中心にして（防災、感染症等）
- ・お金が必要な取組は長続きしない→持続可能な取組を

「何かひとつ 動かしてみることから… 変えてみることから…」  
はじめる一步  
つなげる一步 でも、残された時間は決して多くない…

教頭

### ○協議

#### (1) 学校評価内容について

- ・評価項目はこれでよいか? → 異議なし

#### (2) 各委員からの連絡

- ・角力灘サンセットクルージング（10月19日 16時～19時）
- ・4年後 姉妹都市50周年を迎える 子どもたちにも何か経験させたい

A委員

- ・外海文化市（11月3日）

B委員

- ・学童では、外になかなか出られない状況の中、出前講座、恐竜博物館見学等を実施した。
  - ・10月11日 県庁にてプレゼン ぜひご参加を

C委員

# 学校運営協議会記録

教頭	(3) 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"><li>・第3回 11月 長崎大学よりアドバイザーの先生来校</li><li>・第4回 令和6年度総括 及び 令和7年度の承認について</li><li>・11月15日 ふるさと遠足実施</li><li>・11月18日 アウトリーチコンサート（保護者・地域参観可能）</li><li>・12月8日 そとめっ子発表会</li></ul>
教頭	(4) 次回（第3回） <ul style="list-style-type: none"><li>・11月22日（金）18時～</li></ul>
校長	<校長より> <ul style="list-style-type: none"><li>・ふるさと遠足…ふるさとの名所と人がどのように関わっているか この地域にどんな宗教、文化が根付いているのか 名所の環境をどのように維持していくか。</li></ul>
副会長	○閉会あいさつ <ul style="list-style-type: none"><li>・地域の難しい課題<ul style="list-style-type: none"><li>・（委員の方はたくさん役をもっている中で）これ以上何ができるか →委員だけではなく、住民をどう巻き込むか</li><li>・10年、20年先のことを考えて</li></ul></li></ul>

